

実験名人！間々田先生がやってきた！サイエンスショー＆ワークショップ

8月2日、筑波大学附属視覚特別支援学校の間々田和彦先生が来館されました。先生は、日本各地で実験教室を行い、わかりやすくユニークな説明をする実験名人です。



今回は、サイエンスショー「身近なもの酸性・アルカリ性をたしかめよう！」ワークショップ「天体の大きさを実感しよう」を交互に計4回行いました。

ショーは、普段私たちが口にしている緑茶や麦茶、サイダーなどの飲み物や、うどん・そばなど麺類、豆腐、こんにゃくといった食べ物をBTB溶液を使って調べます。中でも驚いたのが、ほとんど飲み物、食べ物が酸性だったことです。また大根も食べる前と食べたあとでは違うという話も興味深いものがありました。夏休みの自由研究の参考になると、親御さんたちも真剣でした。

またワークショップでは、なかなか実感にくい天体の大きさを粘土や風船を使って体感します。数字だけではなくピンとこないものも、こうして手作業を通じて実感することで、よく理解できたようです。

アンケートからは「もう少し長い時間聞きたかった」「また違う実験も見たいです」とあり、みなさん大満足されたようです。



正方形の鏡を6枚使った無限に広がる世界「立体万華鏡」をつくろう！

正方形の鏡を使った立体万華鏡をつくるワークショップが8月9日に行われました。

まず見本を見て、これからどんなものを作るのかイメージしてもらいました。筒型の普通の万華鏡を想像していた人が多かったようです。今回の「立体万華鏡」は、正方形の鏡を使うので空間が無限に広がります。のぞいてみると想像と違う幻想的な空間に驚いたようでした。

その後、それぞれイメージをふくらませて製作にはいりました。作る手順は難しくないので、ポリカーボネイト板という板の表面の塗料を目打ちで削ったり、除光液で溶かしたりして万華鏡の模様をつくる作業は、意外と力と根気が必要で難しく感じているようです。

しかし、そのうちにいろいろな模様を描いていくことが楽しくなり、瞬間に時間が過ぎてしまいました。模様をつける作業の疲れも完成した美しい万華鏡を見て吹きとび、どの参加者も大満足の様子でした。



★天文トピックス

『月を見あげよう』～今年の中秋の名月は9月27日～

古くから人々は、旧暦の8月15日にお月見をする風習がありました。この日の月を「中秋の名月」とか「十五夜」と言います。2015年の中秋の名月は9月27日です。よく中秋の名月は満月だと思う人もいますが、必ずしも満月になるとは限りません。旧暦の1日は、新月になる瞬間（月が地球と太陽のちょうど間に来た瞬間）を含む日になり、15日はそこから14日後となります。新月になる瞬間が、一日のはじまりか終わりで1日近くも変わってきますし、また、月の軌道や地球の軌道が楕円の関係で、新月から満月になるまでにかかる日数も変化します。以上のことから、中秋の名月は必ず満月になるとは限らず、むしろ満月よりも早く来る傾向があります。満月は翌日の28日です。しかも月との距離が今年最も近く、最大の大きさで見えるスーパームーンとなります。月は、私たちにとって一番身近な天体だと思います。秋は月をながめるのにとってもいい季節ですので、ぜひながめてみましょう。9月10月のプラネタリウム星空散歩のテーマは「月を見あげよう」です。月について、もう少し詳しく知りたい方はこちらもあわせてお楽しみください。



「ジャイロ」ってなんじゃろ？

★笑劇サイエンスショー★

8月5日～9日、夏休み恒例の笑劇サイエンスショー「怪盗ジャイロの挑戦状『ジャイロってなんじゃろ？』」が行われ、連日たくさんの親子に楽しんでいただきました。

豊田市で活躍するお笑い劇団「笑劇派」が当館でサイエンスショーをするのは、今年で3年目になります。「あかねちゃん」と「はるかちゃん」が昨年に引き続き出演しました。

今年は「ジャイロ効果」という難しいテーマでしたが、コマ、皿まわし、車輪などを使い、お笑いを交えながら怪盗ジャイロに挑戦状を解決しながら、わかりやすく進めていきました。見ている子どもたちが、「あかねちゃん」「はるかちゃん」に逆にアドバイスを求める場面や、一緒に実験をする場面もあり、客席と一体となったショーでした。最後の「車輪を一本のひもで支える」実験には大歓声が上がりました。

